

うめだ あんない さくせい
梅田なんばターミナルのバリアフリー案内マップを作成しました

日本郵便株式会社の年賀寄付金助成を使い、NPO法人まちの案内推進ネット(えきペディア)と共同でマップを3万部作製しました。梅田(大阪)、なんばのJ R、阪急、阪神、近鉄、南海の駅や観光案内などに置いてもらうように働きかけています。実は梅田で約50基、なんばで約30基の地下街⇄地上連絡エレベーターがあり、さらに増え続けています。数では日本一と言って良いと思いますが、どこにあるのかはとても分かりにくいのが現状です。本当はどこにエレベーターがあるのかはマップではなく、現地で誰にもわかりやすいようにする必要があります。ただエレベーターの多くは民間ビルにあります。なんばではすべての民間ビルに働きかけ、改善も進んでいますが、ビル正面については行政が動かないとなかなか表示改善にはつながりません。課題はたくさんありますが、2020年オリパラ・2025万博もあり、インバウンド(海外からの旅行者)のためにもわかりやすい表示はとても大切です。マップ作製から現地の表示改善にもつなげたいと思います。

- バリアフリー経路を見える化！ 鉄道駅の乗換えをホームからホームまで経路案内
 - 梅田難波の最新のエレベーターもすべて網羅・写真を掲載し、わかりやすくしました。
 - 階段番号と同じように、エレベーターに番号を付けています。(現地にはまだありません)
- ※マップは無料で郵送します。NPOちゅうぶまでメール・電話下さい。(文責:石田)



梅田となんばのエレベーター網羅

NPOがマップ配布

大阪毎日新聞 2019年4月11日

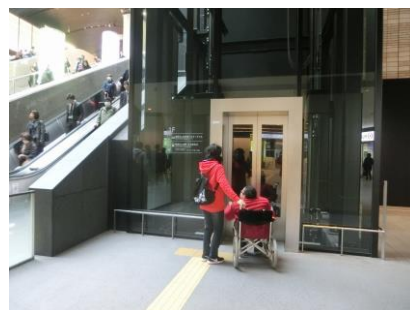
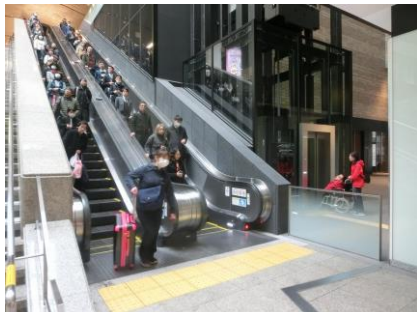
NPO法人「ちゅうぶ」(大阪市東住吉区)は10日、大阪市中央区の高島屋大阪店前で、地上と地下をつなぐエレベーターの位置を掲載した「梅田なんばターミナルマップ」を無料で配布した。エレベーターがなければ上下方向の移動が困難になる車いす利用者や、大きなキャリーバッグを持つ人たちに活用してもらおうことが狙い。



「バリアフリーマップ」を配布する山下さん(左)＝10日、大阪市中央区の高島屋大阪店前

小雨の降る中、車いす利用者4人と同法人のスタッフが「バリアフリーのマップです」などと通行人に呼び掛け、手渡した。車いす利用者で自立生活センタースタッフの山下大祐さんは「エレベーターの場所が分からないと出にくい、マップがあれば外出したくなる」と話す。マップは同法人とNPO法人「まちの案内推進ネット」(同市中央区)が共同で3万部を作成。梅田となんばのエレベーターを網羅し、写真も掲載している。

大阪の場合、梅田には約50基、難波には約30基の地上と地下をつなぐエレベーターがあり、バリアフリー化は進んでいるが、表示がないために利用しづらいのが課題となっている。



南海なんば駅のエレベーター(1階⇄3階)がエスカレーターのすぐ横にできました。なんば駅の改札を出たら左側。雨の時は右側の高島屋に入り地下からいけば濡れずに地下鉄に乗り換えられます。現在、地下街と南海(高島屋)の階段はスロープ化工事が進んでいます。1~2年後にバリアフリールートは劇的に変わります。